

第25話：戦車競走勝者に冠を有翼の女神ニケ

「勝利の女神。アテナの随神。

有翼の女性の姿で表わされる。

ギリシャ語では『Νίκη』 = 勝利 (ムネモシュネ)」

オケアノスの御触れはヘルメスにより、即日届けられ、翌日には、水がらみの、実に多くの神々が集結しました。そのため、普段でも河幅が広い河が、海のように拡がり、まるで洪水の後のようになりました。

そこで、オケアノスは当初の河の上流に逃げた兎を追跡する競走の計画を改めることにしました。

本来の河の上流には、一本の月桂樹の巨樹があります。一面が海の中でその巨樹のみが水面に顔を出しています。折り返し地点は、あの月桂樹と決まりました。

試合会場は、ポセイドンの手下の魑魅魍魎、化け物の雄叫びで、隣りの声が聞えない程です。

皆、船に乗っての試合観戦です。

もちろんタロとディオは、ジェイコブスの帆掛け船です。

トリトンは、ポセイダンの戦車一式を借り受け、勝つのは当然という得意げな顔でいます。彼の取り巻き連中は、戦車を取り囲んで、ヒッポカムポスを撫でています。

オリオンは、ポセイダンの旧式戦車を借り受けました。トリトンの最新鋭と比べると、だいぶガタが来ています。しかも、まだ、戦車を牽くものがいません。

戦車競走に参加する全ての戦車が、一列に並びました。ヒッポカムポスは、抑えきれないほど入れ込んでいます。

そして、競技開始の旗が振られました。

トリトンらの軍団は、直ちに出発します。

でも、なぜか、オリオンの戦車を牽くものがいない。

観客の神々は、戦車軍団のスタートに歓声を上げる一方、オリオンの戦車が動かないことに気が気ではありません。

でも動じないオリオン。オリオンが空に向かって一声掛けると、空が一転、かき曇り、龍のユニがオリオンの元へと降りてきました。オリオンは、手早く戦車の柄に龍のユニの体に巻き付けました。龍のユニの角がなぜか、普段より立派なのが気になります。

龍のユニは、空高く飛び跳ね、オリオンを乗せた戦車は飛ぶように月桂樹の方角を目指し進んで行きます。中古の戦車であるため、龍のユニが体を上下にうならせれば上下に、体を左右にうねらせれば左右に激しく揺れます。そのために、戦車が空中で一回転することもあります。それこそオリオンの腕の見せ所で、ぐんぐん前へ前へと進んで行きます。神々があっけにとられる暇もないまま、たちまち見えなくなります。遙か手前には、依然、ほかの戦車の軍団が進んで行きます。

暫くして、神々の歓声が沸き起こりました。遙か遠く、トリトンらの軍団が威風堂々と凱旋したのです。神々の歓呼に応じて、得意げに手を振って答えます。

その遙か後から、オリオンの戦車は、ほとんどバラバラになり掛かり、ぐるぐる回りながらも、戻ってきました。

観戦したポセイドンが、トリトンの手を握り、勝利者として褒め称えようとした瞬間、オリオンの角の部分がポロッと折れたかと思うと、一匹の蟹が降り立ちました。蟹の鉗には、葉をつけた月桂樹の枝が握られていました。他方の鉗を上げて、『勝利』のVサインを掲げています。

それは、勝利の女神ニケの化身でした。神の姿に戻ると、その手には、葉をつけた月桂樹の枝が握られていました。ニケはポセイドンに呼びかけました。

「この月桂樹の枝は、オリオンが、かの月桂樹の大樹に到達した証しで、私ニケはオリオンが勝者と認めます。」この声に、集まった全員が頷きます。そし、ポセイドンの手も止まりました。そして、皆の視線は、トリトンに注がれました。色白のトリトンは恥ずかしさと怒りなどで真っ赤になって言いました。

「だって、僕の方が先に着いたじゃないか？」

取り巻きの白イルカの大群は、「そうだ！そうだ！」と口々に言い募ります。

しかし、老練かオケアノスは、流石に深慮深い神であり、こんな時のために、手を打っていました。

戦車競走の開始に先立って、オケアノスは、河の上流に、検問の場所を決め、そこにカワセミを配置していました、カワセミとは、鮮やかな水色の体と長い嘴が特徴の鳥で、別名『翡翠』という名を持つ蒼色の美しい鳥です。ニケは、有翼の女神で、カワセミもその化身かも知れません。

その一羽が、トリトンが上流に向かう途中で引き返して、さも全距離走ったふりをしていた旨、不正を報告します。これを聞いたポセイドンは、舌打ちし、トリトンの手を放し、オリオンの手を上げて、彼の勝利を宣言しました。そして、月桂樹の冠を被せたのでした。

観戦していたタロとディオも、オリオンに大きな拍手を送りました。そして、龍のユニの健闘を称えました。

トリトンは、台から降りると、逃げるようにその場から走り去りました。

ニケの夜空の居城は、蟹座です。

タロは気になって、ズボンのポケットの小さなノートを開くと、二十二頁目に文字が書いてあります。

「易経：上卦＝地：下卦＝雷：地雷復」

「一陽来復：土の下で芽が伸び始める」

地下で芽、悪の芽でないことを祈る。

「燕が南からやって来る」清明の始まりです。

それからどうなったでしょう？お話し、続きはまた明日！